

1. 授業のねらい・概要

貨幣と金融の関係、銀行などの金融システムの役割、貨幣の供給と需要、それらと中央銀行の役割の意味を把握し、それをもとに現実の日本や世界経済の中での金融の重要性を理解していく。金融論の基礎から日本や世界経済の現実を理解するための知識を、基礎を踏まえてさらに深めていくことが、この講義の目的である。ただし予備的な知識はいらないように配慮し、毎回自己完結的な講義を行う。必要な知識はその都度講義の中で丁寧に解説する方針である。できるだけ日常で話題になる経済的な出来事との関係を意識して講義をすすめていきたい。就職や将来の社会人生活のための必要不可欠な金融の知識の提供、そして現実経済のダイナミズムを理解することが、本講義の最終的な目的となる。

2. 授業の進め方

指定した教科書などを参考に内容を時事的テーマもからめてわかりやすく説明していく。初心者でも予備知識なく国際金融の理解が深まるように講義は進行していくだろう。

3. 授業計画

1. アベノミクスと金融政策	9. 成長戦略とサプライサイド経済学
2. バブル経済から「失われた 20 年」	10. 成長戦略と企業投資
3. バブル経済から「失われた 20 年」(続き)	11. コーポレート・ガバナンスと M&A
4. 1970 年代から現在までの金融制度の発展	12. 地域経済と中小企業の活性化
5. 異次元緩和策と伝統的金融政策	13. グローバリゼーションとアベノミクス
6. 金融政策の一般均衡理論	14. ジョルディ・ガリの経済学と動学的確率的一般均衡
7. 金融政策の一般的均衡理論 (続き)	15. ジョルディ・ガリの経済学へ動学的確率的一般均衡 (続き)
8. 金融市場と非対称情報	

4. 到達目標

金融論の理論と制度、歴史の基本項目について、基礎知識をもとに実際の経済を見る目を養い、さらに自分で政策評価をすることができるレベルまで育成していく。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

毎回の授業の前に指定された参考資料を各自よく学んでおくこと。目安として1時間程度の学習時間が必要。

6. 成績評価の方法・基準

授業中の取り組む姿勢を重視する。期末には試験またはレポートを提出させて総合的に評価していく。

7. テキスト・参考文献

講義は以下のテキストを利用して行う。

藪下史郎『教養としてのマクロ経済学』（東洋経済新報社）

ジョルディ・ガリ『金融政策、インフレーション、景気循環』（仮題、勁草書房近刊）

8. 受講上の留意事項

特にない。